

海運の重要性を学校教育の場で～下関市内の小学校 2 校を招待～

日本船主協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、海事・港湾都市をはじめ教育委員会等各方面へお願いしております。

今般、11 月 1 日（木）に下関市と共に、関釜フェリーおよび九州海事広報協会などの協力を得て、長州出島国際物流ターミナル、三菱重工業下関造船所、フェリー「SEONG HEE」の船内見学、および海運に関する講話などを市内の小学 6 年生 約 120 名を対象に実施しました。

国際物流ターミナルでは、多目的コンテナ船がコンテナの荷役を行っている様子を見学するとともに、空のコンテナの中に入り、その大きさを体感し、全員で感激しました。また、リーファー（冷凍・冷蔵）コンテナで運ばれてきたパプリカなどの食品がコンテナ内でどのように積みされているのか等も見学することができました。



下関造船所では、建造中の全長約 200m のフェリーや溶接作業を間近に見ることができ、船ができるまでの行程を知ることができました。

「SEONG HEE」乗船に際しては、日本は様々なものを外国との間で輸出入していることや、税関の役割・仕事内容（麻薬犬による取締デモンストレーションを実施）、パスポートにまつわる話を聞くことができました。

船内では、当協会より、貿易量の 99%以上は船が担っているなど「生活には船は必要」であることを伝えるとともに、300m を超える大きな船でも約 22 名の船員が協力し合い動かしているなど「船員の魅力」についても説明しました。

船内見学では、関釜フェリー職員より、船橋（ブリッジ）でレーダーや航海機器、海図、舵輪などの説明があり、児童たちは航海機器に興味をもった様子でした。

当協会では、今後もわが国の暮らしと産業を支える海事産業を広く知っていただくための活動を展開してまいります。

